



霧のまち「かめおか」

亀岡市 三大観光の一つ『保津川下り』の四季

春



夏



秋



冬



なぜ、いま、「**プラごみゼロ**」を目指すのか

～たった二人の船頭から始まった～

「環境先進都市・亀岡市への一歩」

なぜ、いま、「プラごみゼロ」を目指すのか

保津川に溜まる、漂う、ごみ、ごみ、ごみ…



川沿いの木々にかかる
ビニール袋

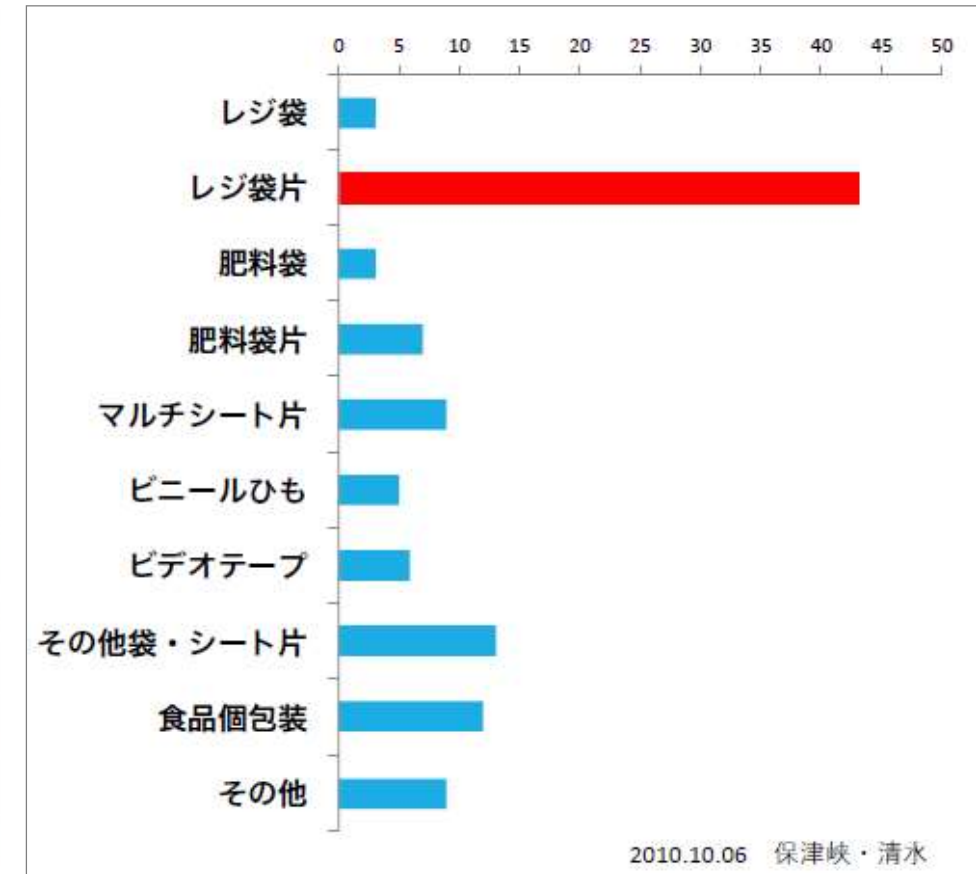
堆積する
被覆肥料

ペットボトル
空き缶



なぜ、いま、「**プラごみゼロ**」を目指すのか

2人の船頭による地道な清掃活動が始まった(2004年～)



なぜ、いま、「プラごみゼロ」を目指すのか

河川ごみ漂流状況モニタリング調査を実施



京都・嵐山からGPS付発信機を放流

大阪湾まで約80km

- 亀岡から大阪湾までわずか1日でごみが到達！
- 内陸部からの発生抑制対策が重要！！

なぜ、いま、「プラごみゼロ」を目指すのか

第10回海ごみサミット2012亀岡保津川会議を開催(2012.8)



海ごみサミット2012かめおか保津川会議
保津川がつなぐ ひと・まち・うみ
～流域から海洋ごみの発生抑制を考える～



8月24日(金)～26日(日)国内外から延べ約500名参加
・亀岡保津川宣言
・川のごみや海のごみをともに考える京都流域宣言
両宣言を発表して閉幕

なぜ、いま、「**プラごみゼロ**」を目指すのか



～2030年までに使い捨てプラスチックごみゼロを目指す～

「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」

なぜ、いま、「プラごみゼロ」を目指すのか

市議会とともに ～「プラスチックごみゼロ宣言」を発信～

2004年	保津川下りの船頭さんによる清掃活動が始まる
2007年	保津川の環境保全に取り組む NPO法人プロジェクト保津川が誕生(法人設立は2008年)
2012年	内陸部の自治体初 海ごみサミット2012亀岡保津川会議を開催
2013年	(みんなでつくろう) 川と海つながり共創プロジェクト設立
2015年	環境先進都市を目指すビジョンを示す
2018年	亀岡ゼロエミッション計画を策定

2018年12月13日
かめおか
プラスチック
ごみゼロ宣言

なぜ、いま、「プラごみゼロ」を目指すのか

「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」～宣言文～

深刻化する海洋プラスチック汚染は、魚や海鳥などの海の生態系にまで大きな影響を与え、地球規模の問題となっています。ここ亀岡でも、大量のペットボトルやレジ袋などのプラスチックごみ問題が、保津川をはじめとする自然景観や市民の生活環境、そして観光にも大きな影響を与えているだけでなく、「市の魚 アユモドキ」に代表される多様な川の生態系にも影響を及ぼすことが危惧されています。

この問題は、私たち一人ひとりの身近な問題として捉えていく必要があります。そして、私たちができる身近な取組みを国内外の他都市とも連携し、湧き上がるような大きな流れを巻き起こしていかなければ解決できるものではありません。

今、世界では、使い捨てプラスチックごみの削減に向けた動きが加速しています。亀岡市は、平成24年に内陸部の自治体で初めてとなる海ごみサミットを開催し「母なる川保津川」から海ごみをなくす取組みを発信してきました。こうした取組みをさらに深化させ、みなさんとともに**2030年までに使い捨てプラスチックごみゼロのまちを目指します。**

そして、**自然環境の保全と地域経済の活性化に一体的に取り組む『世界に誇れる環境先進都市』を実現します。**

2018年12月13日

亀岡市長 桂川 孝裕

亀岡市議会議長 湊 泰孝

なぜ、いま、「プラごみゼロ」を目指すのか

「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」～目指す目標～

- 1 市内の店舗でのプラスチック製レジ袋有料化を皮切りにプラスチック製レジ袋禁止に踏み切り、**エコバッグ持参率100%**を目指す取組みを進めます。
- 2 「保津川から下流へ、そして海にプラスチックごみを流さない。」世界規模の海洋汚染(マイクロプラスチック)問題に立ち上がる**意識のつながり**を呼び掛けます。
- 3 当面発生するプラスチックごみについては100%回収し、**持続可能な地域内資源循環**を目指します。
- 4 使い捨てプラスチックの使用削減を広く呼びかけ、市内のイベントにおいても**リユース食器や再生可能な素材の食器を使用**します。
- 5 市民や事業者の環境に配慮した取組みを積極的に支援し、世界最先端の『環境先進都市・亀岡市』の**ブランド力向上**を目指します。



2030年に向けて～私たちの**取組**～

～エコバッグ持参率100%からライフスタイルの変革へ～

「亀岡市プラスチック製レジ袋の 提供禁止に関する条例」

2030年に向けて～私たちの**取組**～

プラ製レジ袋提供禁止へ～世界に誇れる環境先進都市・かめおか協議会を設立～

2019年4月に発足。プラ製レジ袋提供禁止条例のほか、市の環境政策について多様な立場から幅広く議論を行う。



- ▶会長は、保津川遊船企業組合の代表、副会長はNPOの代表と商工会議所の専務理事がそれぞれ務め、多様な意見を発言しやすい体制を構築
- ▶事務局を市が努め、議事の停滞を防ぐ。傍聴可能とし、メディアにも公開。
- ▶「**消費者の理解があれば、レジ袋禁止は可能**」との声が事業者から出てきた。

参画組織	組織数
住民関係組織	1
観光事業者	6
小売事業者	11
学識経験者	2
NPO等	7
金融機関	4
行政機関	4

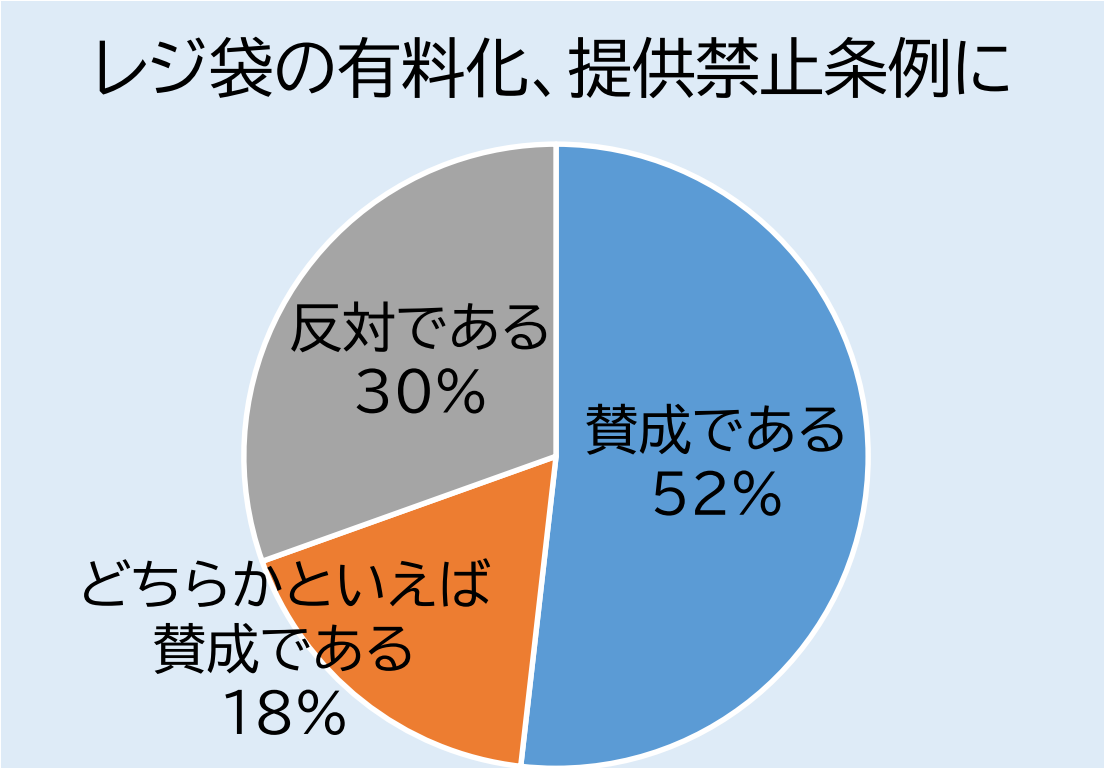
(産官学35団体で構成)

2030年に向けて～私たちの取組～

プラ製レジ袋提供禁止へ ～市民説明会を開催～

■意識調査(28会場・610名回答)

レジ袋の有料化、提供禁止条例に



【説明会参加者】

年齢		職業		住まい	
10代以下	0	会社員	112	市内	577
20代	4	自営業	47	市外	3
30代	5	公務員	3		
40代	31	学生	18		
50代	87	無職	275	回答者数	
60代以上	437	その他	122		

2030年に向けて～私たちの取組～

プラ製レジ袋提供禁止へ～Plastics Smart 亀岡100人会議を開催～

【主 旨】

- ▶「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」の背景や考え方、そして“世界に誇れる環境先進都市・亀岡”を目指す今後の方向性を共有
- ▶私たちのまち『亀岡』が持つ高いポテンシャルを活かした『地域ブランド』の向上
- ▶『シビックプライド(市民の誇り)』の創造



STEP ①

ローカルとグローバルな視点で「プラごみゼロ宣言」に
込めた想いを共有するミーティングを開催

STEP ②

ミーティング参加者をワークショップへつなげ、ロゴ
マークのアイデアシートを作成

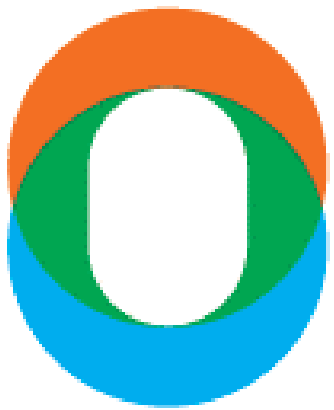
STEP ③

アイデアシートと関係者、ワークショップ参加者とともに、
デザイナーによるロゴマークデザインへ展開

2030年に向けて～私たちの**取組**～

プラ製レジ袋提供禁止へ～取組の象徴「環境ロゴマーク」を製作～

ともに生きる



プラごみゼロ

■ロゴマーク制作ワークショップを開催

- ▶2019年9月から12月までの全4回、19名が参加
- ▶中学生、高校生、商業者、船頭、NPO、金融機関などから幅広く・多彩な市民が終結
- ▶江崎グリコやロート製薬等のロゴマークを手掛けたデザイナー「奥村昭夫」氏の進行により、参加者の言葉や想いが引き出された。



空と太陽、大地と緑、川と海、そのような生きとし生けるものが集まって、
「ともに生きる」という想いをゼロという文字で表現したデザインが誕生

2030年に向けて～私たちの**取組**～

～「環境×芸術」でエコバッグの普及を目指す～

「KAMEOKA FLY BAG Project」

2030年に向けて～私たちの**取組**～

エコバッグ普及へ ～「環境×芸術」KAMEOKA FLY BAG Project～



亀岡の
大空を舞う
パラグライダー

JR亀岡駅北広場に現れた巨大エコバッグ



2030年に向けて～私たちの取組～

エコバッグ普及へ ～「環境×芸術」KAMEOKA FLY BAG Project～

巨大エコバッグを解体し、世界に一つのエコバッグを作るワークショップを開催
200名の市民が参加した。(2019.7)



水が海へ流れ
やがて雨は川に流れ
川を流れて海に着くように
とてどろどろと自然な流れを
FLY BAG がつなぐ未来を。
 THEATRE PRODUCTS



2030年に向けて～私たちの**取組**～

エコバッグ普及へ ～HOZUBAG生産拠点を整備(2021.3)～



古民家を改装
した拠点施設



作業場の様子



全国から集められた
パラグライダー生地

作業の様子



古民家を改装したHOZUBAG生産拠点を整備。環境への取組が**新たな雇用を生んだ**。

2030年に向けて～私たちの取組～

エコバッグ普及へ ～HOZUBAG販売スタート(2020.10)～



KAMEOKA FLY BAG Projectから
HOZUBAG(ホズバッグ)が誕生
亀岡発のアップサイクル製品として東京銀座
ロフトから販売が始まった。

2030年に向けて～私たちの**取組**～

プラ製レジ袋提供禁止へ～紙袋の共同購入事業を展開～



- ▶事業者が共同で購入できるしくみを構築
- ▶メッセージデザインを施した紙袋を製作
- ▶補助金(1/2)を投入し、事業者、消費者の負担を軽減

(裏面)



(底面)



2030年に向けて～私たちの**取組**～

プラ製レジ袋提供禁止へ～そしてプラ製レジ袋提供禁止条例制定へ～

【条例の概要】

- ▶事業者がプラスチック製レジ袋(生分解性の袋を除く)を提供することを禁止
- ▶生分解性の袋であっても無償で提供することを禁止
- ▶違反者は、審査会の意見を聞いた上で氏名を公表



2019年8月20日
レジ袋有料化開始

2020年3月24日
条例制定

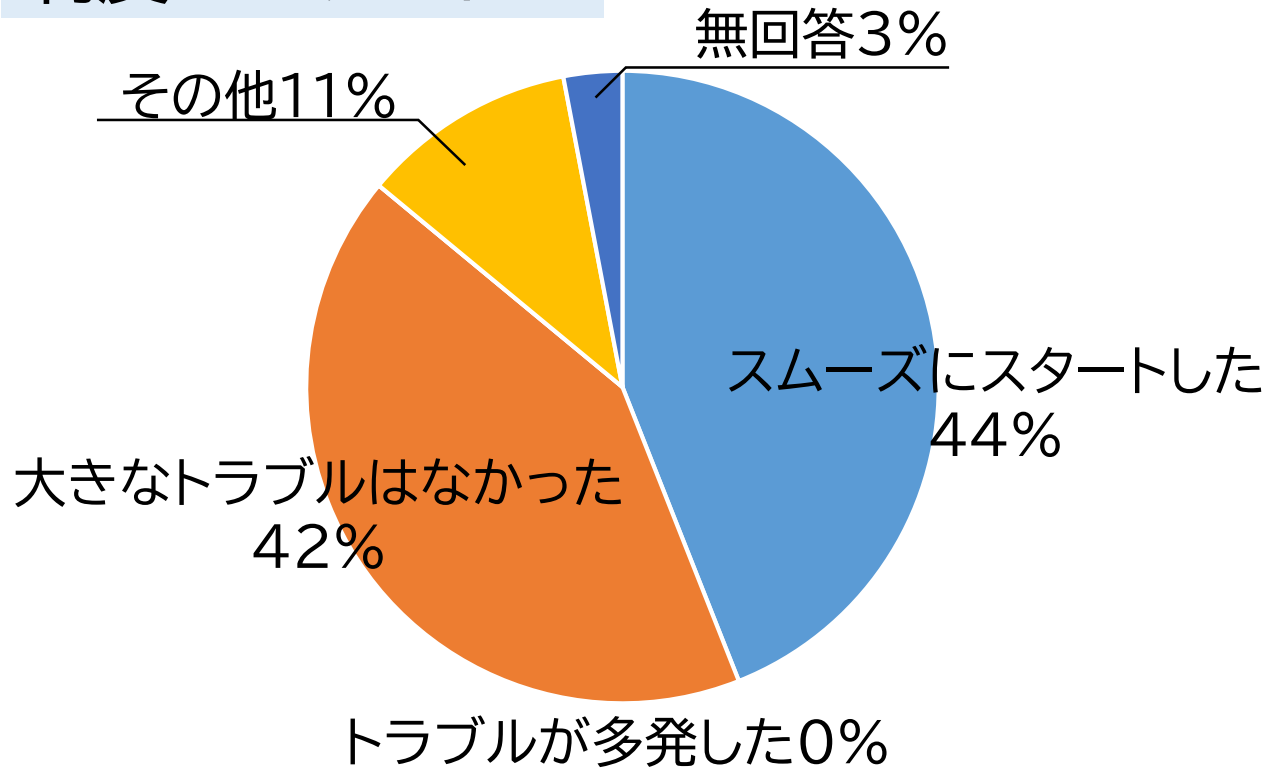
2021年1月1日
条例施行

2021年6月1日
氏名公表施行

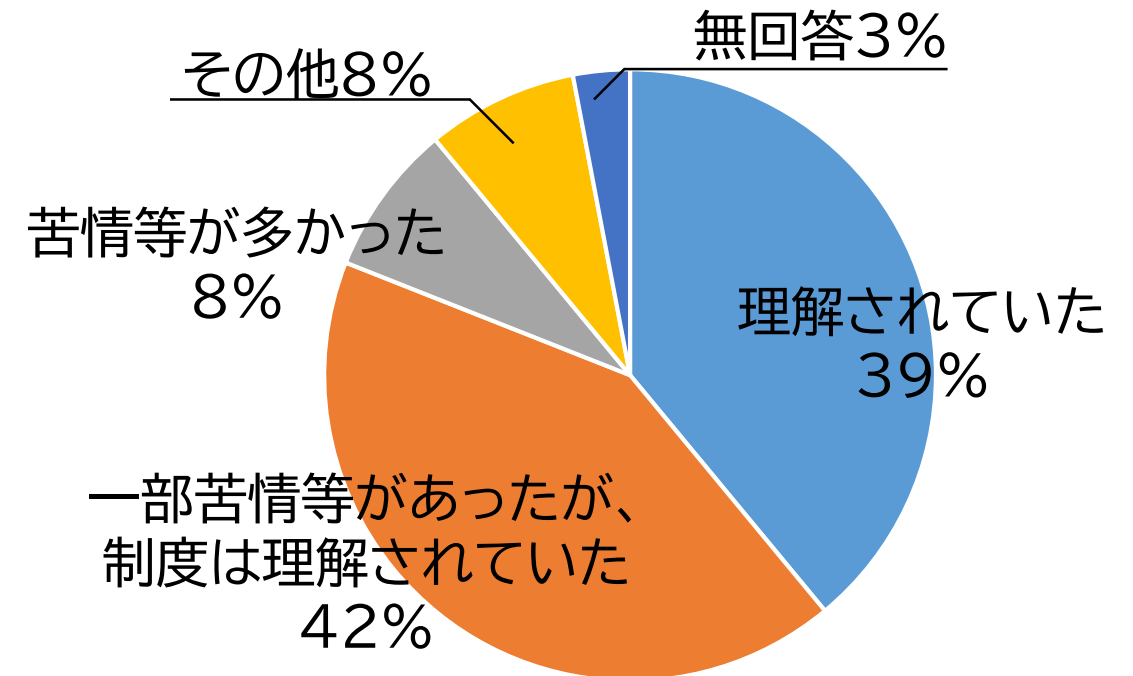
2030年に向けて～私たちの取組～

条例がスタート。事業者の反応は

制度のスタートは

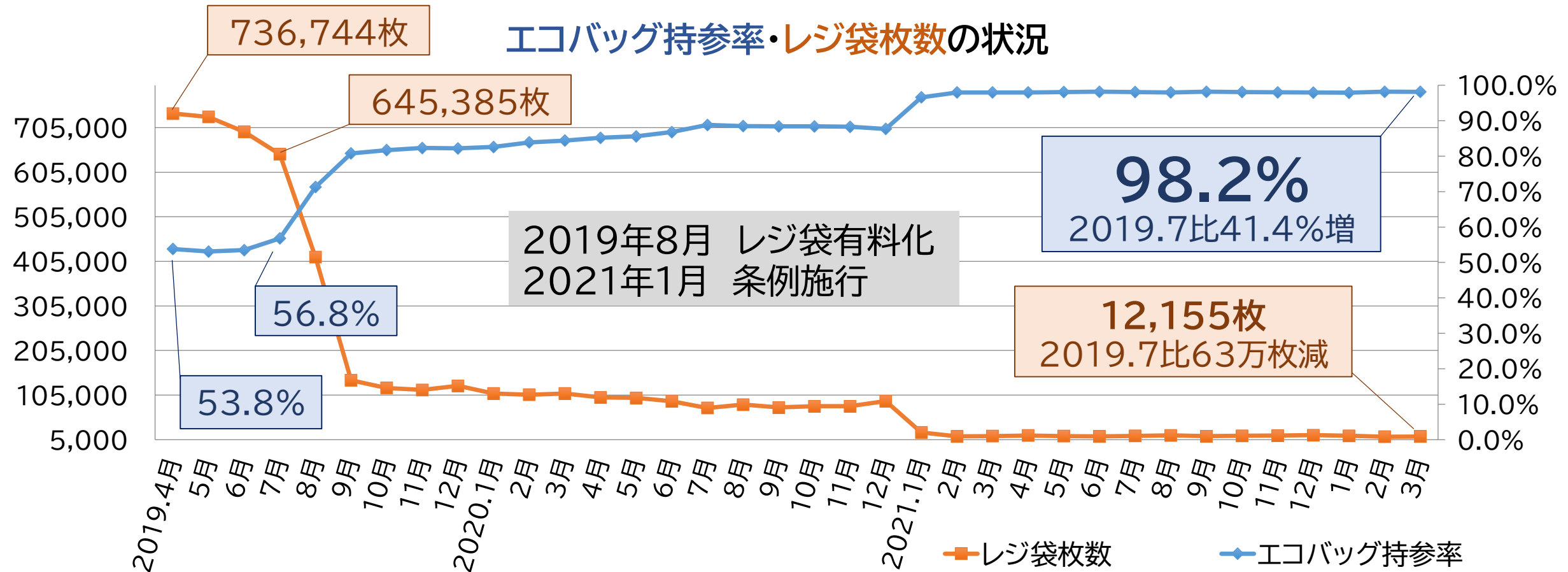


お客様の反応は



2030年に向けて～私たちの取組～

プラ製レジ袋提供禁止条例がもたらした効果



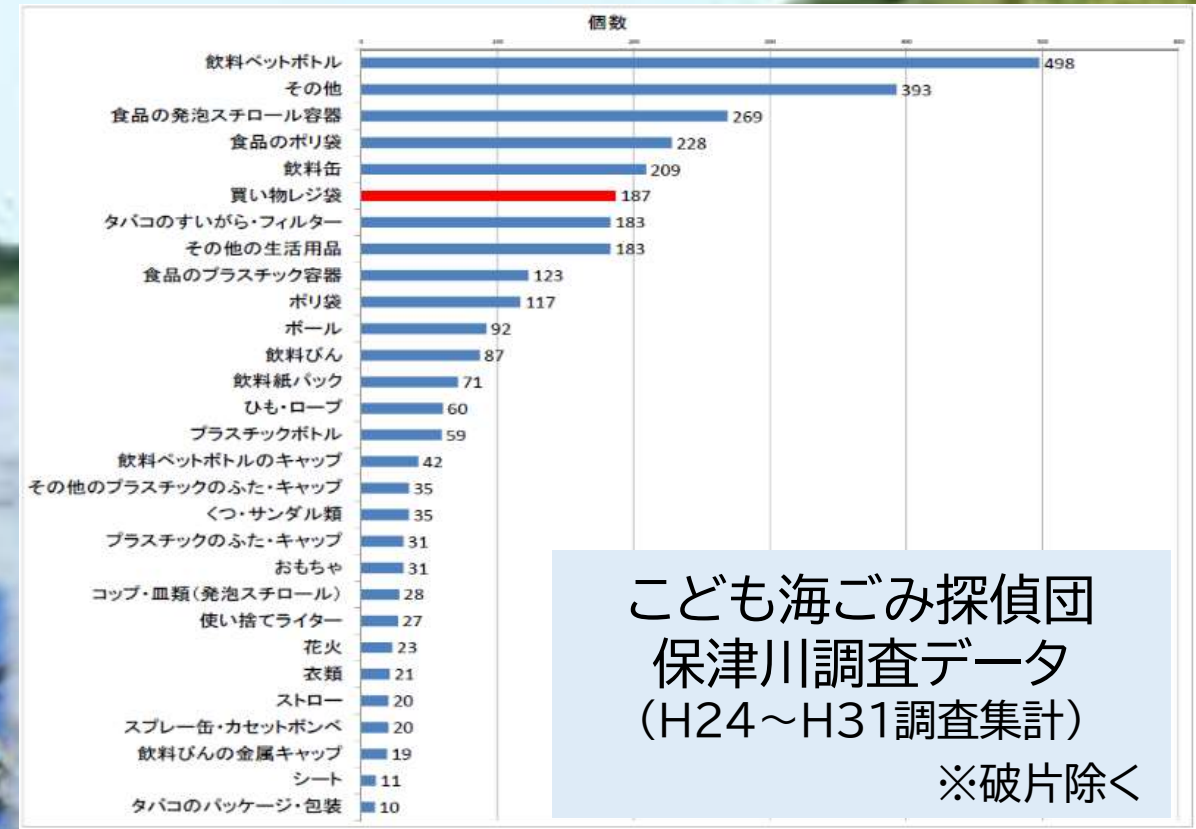
2030年に向けて～私たちの**取組**～

～未来を生きる子どもたちとともに～

「次世代の育成」

2030年に向けて～私たちの取組～

次世代の育成 ～こども海ごみ探偵団(2012～)～



2030年に向けて～私たちの取組～

次世代の育成 ～企業と共に環境教育を実施～

Pepper(ペッパー)を活用した環境学習授業(小学校)



ユニクロ亀岡店と連携した環境学習授業(中学校)



BRITA Japanと連携した環境学習授業(高校)



2030年に向けて～私たちの**取組**～

次世代の育成 ～保津川 環境とふるさと学習を実施(2021.6～)～



小学4年生を対象に、ラフティングボートで川を下り、体験を通じて自然と環境を学習



2030年に向けて～私たちの**取組**～

～まちとともに～

「リバーフレンドリーレストランプロジェクト」
「亀岡のおいしい水プロジェクト」
「リユース食器利用促進事業」

2030年に向けて～私たちの**取組**～

まちとともに ～リバーフレンドリーレストランプロジェクト(2021.3～)～

- 環境に配慮した取組みを実践する市内飲食店を登録
- 亀岡市のブランドイメージ向上と地域経済の活性化を目指す。
- 店舗はエコスポンサー料3,000円を負担。次世代教育に活用

【認定基準】

- 次の認定基準を全て満たす
 - ・発泡スチロール容器は使用しない
 - ・ごみの減量と適切なリサイクルに取り組む
 - ・店舗内での商品の提供には、使い捨て食器等を使用しない
 - ・テイクアウト時の紙袋やカトラリー類は顧客の要望があった場合のみ提供
 - ・紙ストローは顧客が希望した場合にのみ提供
 - ・無料でマイボトルに給水できる
- 「ペットボトル製品を販売しない」などのオプション基準を2以上満たす



(店頭サイン)

登録店舗:22店
(2023.2現在)

2030年に向けて～私たちの**取組**～

まちとともに ～「亀岡のおいしい水」プロジェクト(2021.3～)～

～ペットボトルの削減を目指す、マイボトル普及へのアプローチ～

【給水スポットの拡大】

- ▶市内公共施設10か所、小・中・義務教育学校25校及び市内高校2校に給水器を設置
- ▶市内事業所を給水スポットに登録(2023.2現在81か所)

【マイボトル普及】

- ▶企業と連携し、イベント等を通じてマイボトル普及を啓発

【新たなライフスタイルの提案】

- ▶アプリを使い「給水スポットを探す」新たなライフスタイルを提案



『おいしい水スポット』サイン

2030年に向けて～私たちの**取組**～

まちとともに ～「リユース食器」利用促進事業(2020.7～)～

市内で開催されるイベントで使用するリユース食器の借り上げ費用の一部を補助

【補助金の概要】

▶対象者

- ・市内でイベントを主催する団体及び個人
- ・市内で開催するイベントに出店する団体及び個人

▶対象事業

- ・市内で開催されるイベントにおいて、リユース食器を合計100個以上利用する事業

▶補助率

- ・リユース食器の借上げ費用の3分の2以内
(上限20万円)



2030年に向けて～私たちの**取組**～

～企業とともに～

「連携協定・パートナーシップ協定」

2030年に向けて～私たちの取組～



2030年に向けて～私たちの取組～

事業者名	締結日	取組内容
ソフトバンク株式会社	R1.10.30	教育分野、環境分野における連携
株式会社ユニクロ亀岡店	R2.3.13	市内中学校における環境教育の実施
BRITA Japan株式会社	R2.6.30	ペットボトル削減に向けた取組の連携
(一社)Social Innovation Japan	R3.4.9	マイボトル普及拡大によるペットボトル削減の取組
ウォータースタンド株式会社	R3.6.3	マイボトル普及拡大によるペットボトル削減の取組
株式会社DESIGN WORKS ANCIENT	R3.6.22	マイボトル普及拡大によるペットボトル削減の取組
日本紙業有限会社	R3.7.27	資源回収拠点の拡充等の取組連携
タイガー魔法瓶株式会社	R3.7.28	ステンレスボトル回収モデル事業の取組
株式会社力ネカ	R3.11.25	生分解性の袋の活用方法検討・研究
株式会社カインズ	R3.12.3	連携による環境配慮の取組
株式会社セブン・イレブン・ジャパン	R4.1.24	ペットボトル回収機の設置、リサイクルの取組
日本環境設計株式会社(現:JEPLAN)	R4.2.17	ケミカルリサイクル推進の取組
株式会社斗々屋	R4.5.13	ごみを出さない暮らし、社会に向けた取組
株式会社ecommit	R4.8.17	リユースの環を広げる取組を促進

2030年に向けて～私たちの**取組**～

企業とともに～マイボトル普及拡大によるペットボトル削減～

mymizuアプリによる無料
給水スポットの発信等



市内の全小・中・義務教育学
校へ給水機設置(計45台)



寄贈されたミニボトル
7,000本を子ども達へ



2030年に向けて～私たちの**取組**～

企業とともに～サーキュラーエコノミーの構築に向けて～

使用済みステンレスボトル
の回収・再資源化の取組



ケミカルリサイクルによる
ボトルtoボトルの推進



リユースの環を広げる取組
を促進



2030年に向けて～私たちの**取組**～

企業とともに～環境をテーマに様々な取組の連携～

生分解性素材の活用に向けたプロジェクトの実施



くみまちプロジェクトによる環境に関する共創活動の展開



ごみを出さないゼロウェイストな取組の実践



(株) 斗々屋

2030年に向けて～私たちの取組～

企業とともに ～企業×企業の取組にも発展(2021.10)～

BRITA Japan(株)と(一社)Social Innovation Japanが連携し、楽しみながらペットボトルを削減する「mymizuチャレンジ」を開催

【取組の概要】

- ▶給水器の利用でどれだけペットボトルを削減できたかチームで競う。
- ▶参加者には、BRITA製浄水機能付きボトルを進呈！上位入賞者にも賞品を贈呈
- ①マイボトルに給水
- ②給水をmy Mizuアプリでカウント

284チーム、1,274名がチャレンジに参加！

1箇月で、500mlペットボトル
37,543本相当を削減できました！



2030年に向けて～私たちの**取組**～

～美しいまちへ～

「エコウォーカー・エコウォーカーキッズ」
「ポイ捨てごみゼロプロジェクト」

2030年に向けて～私たちの**取組**～

美しいまちへ ～エコウォーカー事業(2020.3)～

【エコウォーカーは】

- ▶ウォーキングなどをしながら行う、身近で気軽に自由な新感覚の清掃活動
- ▶登録者には、ごみ拾い専用のトングやBRITA製ボトル、オリジナルHOZUBAGを進呈



約1,600名が活躍中(2023.2現在)

2030年に向けて～私たちの**取組**～

美しいまちへ ～エコウォーカーキッズ・チャレンジプログラム(2021.7)～

「エコウォーカーキッズ」は、保育所、幼稚園の年長児を対象に、清潔で快適なまちづくりへの想いを醸成し、将来にわたり環境を守り育てる意識の芽生えに導く取組

【取組の概要】

- STEP1 散歩をしながらごみ拾い
- STEP2 拾ったごみを分別・調査
- STEP3 調査結果を亀岡市に報告



参加者には、チャレンジユニフォームなどを提供



2030年に向けて～私たちの取組～

美しいまちへ ～ポイ捨てごみゼロプロジェクト(2022.4)～

ソフトバンクと連携し、ポイ捨てごみのないまちづくりを目指すプロジェクトを実施

【取組内容】

- ▶LINEを活用し、市内のポイ捨てごみ情報を市民から投稿
- ▶ポイ捨てごみデータが多い箇所に、IoTごみ箱の設置等、対策を実施

ごみを捨てにくい環境構築

SoftBank



LINEを活用した
ごみ投稿サービス

西日本初となる
IoTごみ箱の設置



2050年脱炭素社会の実現に向けて

脱炭素化の推進 ～第3次亀岡市環境基本計画(2022.3)～

目指すべき
環境像

▶ 未来につなごう 世界に誇れる持続可能な環境先進都市 かめおか

重点目標

- ▶
- 1 二酸化炭素排出量実質ゼロのまちづくり
 - 2 使い捨てプラスチックごみゼロのまちづくり
 - 3 亀岡ブランドの創造による地域経済が循環するまちづくり
 - 4 ごみを減らして資源を有効活用するまちづくり
 - 5 多様な生きものと共生できるまちづくり

施策分野

1 脱炭素化の推進

2 資源循環型社会の形成

3 生活環境の保全

4 自然との共生

5 亀岡ブランドの創造・発信

6 環境意識の普及啓発

2050年脱炭素社会の実現に向けて

CO2排出量実質ゼロへ～かめおか脱炭素宣言～

近年、地球温暖化が原因とされる気候変動により、猛暑、干ばつ、集中豪雨や大型台風などの自然災害が多発し、気候変動がもたらす異常気象の影響は深刻さを増しています。

2015年に合意されたパリ協定では、「平均気温上昇の幅を2度未満とする」目標が国際的に共有され、2018年に公表されたIPCC(国連の気候変動に関する政府間パネル)の特別報告書では、「気温上昇を2度よりリスクの低い1.5度に抑えるためには、2050年までにCO2の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。

このような背景を受け、SDGs未来都市に選定された都市として、本市の豊かな自然環境を未来に引き継ぎ、暮らしと社会を持続可能なものとしていくために、**2050年の脱炭素社会の実現に向けて、国・府と連携し、市民や事業者のみなさまと共に、CO2排出量実質ゼロを目指し、世界に誇れる環境先進都市づくりに取り組んでまいります。**

令和3年2月15日

亀岡市長 桂川 孝裕

2050年脱炭素社会の実現に向けて

世界首長誓約／日本 ～2022.12.26署名～

- ▶気候変動対策に取り組み、持続可能でレジリエントな地域づくりを目指す
- ▶パリ協定の目標達成に貢献しようとする自治体の首長が誓約する国際的な仕組み
- ▶誓約後2年以内に、気候エネルギー行動計画を策定・報告し、取り組む

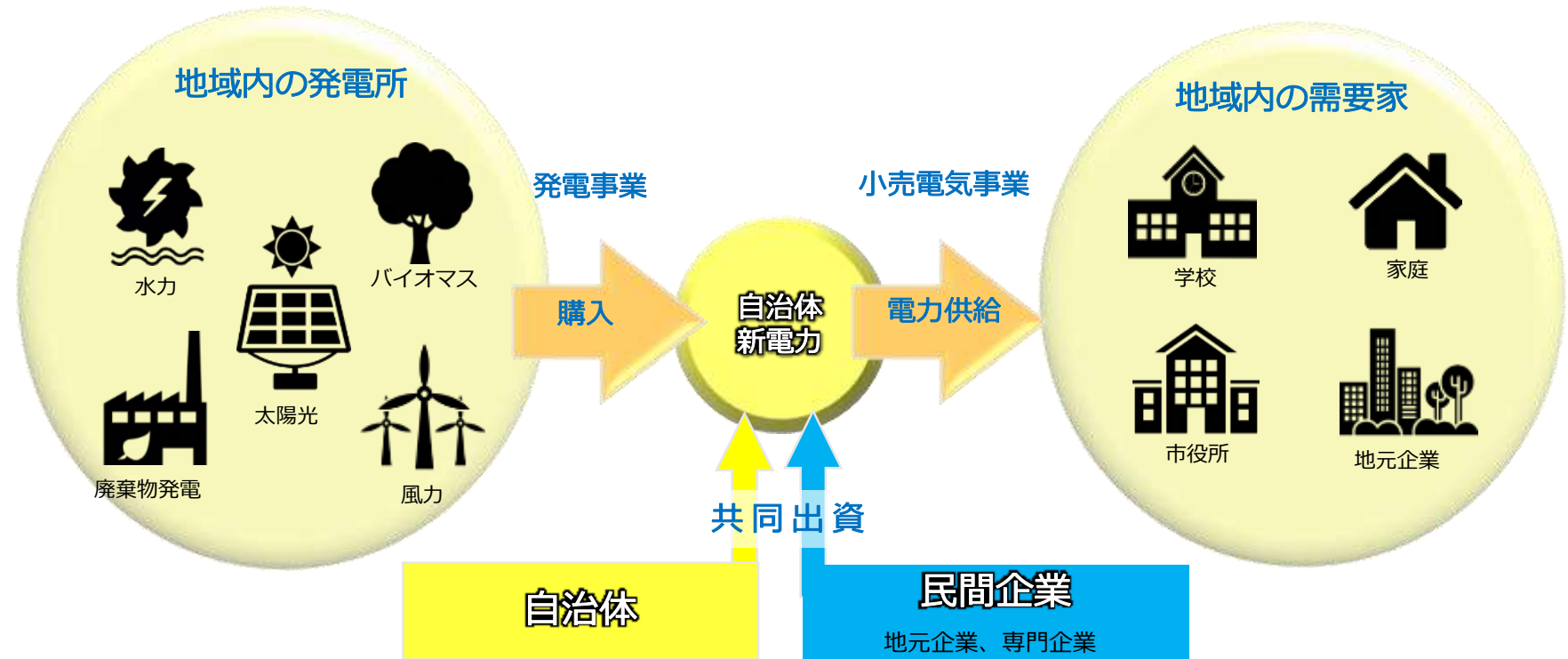


2050年脱炭素社会の実現に向けて

府内発の自治体新電力会社 ～亀岡ふるさとエナジー株式会社～

亀岡ふるさとエナジー

設立年 2018年1月31日
資本金 800万円
株主 亀岡市
パシフィックパワー(株)
亀岡商工会議所
(株)京都銀行
京都信用金庫
京都中央信用金庫
京都北都信用金庫



2050年脱炭素社会の実現に向けて

エネルギー地産地消の取組 ～市内3カ所から電力調達し、供給～



【供給電源構成】

- ▶日本卸電力取引所（JEPX） 約40%
- ▶太陽光発電（再生可能エネルギー） 約60%

京セラTCLソーラー合同会社が手掛ける「京都・亀岡メガソーラー発電所」（出力：3,000kW）で発電された電力を特定卸供給により買い取り開始。



市内で発電されたエネルギーを、亀岡市の公共施設を中心に約50施設に供給し、エネルギーの地産地消を推進

2050年脱炭素社会の実現に向けて

エネルギー地産地消の取組 ～市内3カ所から電力調達し、供給～

■京都スタジアム 太陽光発電所

発電設備容量：936.96kW PCS容量：480.0kW
発電事業者：
(株)京セラソーラーコーポレーション



■亀岡市年谷浄化センター 消化ガス発電所

発電設備容量：175kW
発電事業者：月島機械株式会社



2050年脱炭素社会の実現に向けて

PPA自家消費型太陽光発電の実施 ～市上下水道部庁舎～

- ▶PPA事業者（電力会社）が太陽光発電設備の導入費用を調達
- ▶需要家は設置場所を無償で貸し出し、事業者が設備を導入
- ▶需要家は使用料金を事業者に支払い、事業者は電気料金で投資回収

脱炭素化と地域のレジリエンス
強化に貢献



市上下水道部庁舎（屋上）



導入設備の概要

・ 太陽光パネル	40.5kW
・ パワコン	30kW
・ 蓄電池	29.4kWh

2050年脱炭素社会の実現に向けて

PPA自家消費型太陽光発電の実施 ～渡辺製菓(株) 霰館～

▶屋根置き太陽光事業者の第二電力(株)と連携し、市内民間企業など事業所の屋根に太陽光パネルを設置

▶亀岡市内における再生可能エネルギーの利用拡大を促進する「自家消費型太陽光エネルギープロジェクト」を推進



渡辺製菓(株) 霰館屋上

導入設備の概要

- ・太陽光パネル 125.4kW
- ・パワコン 74.25kW

地域の脱炭素化を推進

2050年脱炭素社会の実現に向けて

その他、エネマネ、省エネ事業等の実施

【VPP事業（バーチャルパワープラント）】

- ▶自治体新電力が公共施設での節電や蓄電池の放電を管理し、発電・蓄電・需要を一つの発電所のようにコントロールする。



【省エネ事業】

- ▶施設の省エネ診断を実施し、エネルギーの使用に関する運用改善支援を行う。
- ▶診断に基づいて、最適な省エネ設備・機器導入



例：小中学校や公共施設等の省エネ診断実施

亀岡ふるさとエナジー(株)を核とし、地域単位での脱炭素化を進め、地域に資金が循環する体制を構築していく

～レジ袋で終わらない。プラごみゼロへの取組～

「環境先進都市・SDGs未来都市」

亀岡市の挑戦

SDGsモデル事業として「開かれたアトリエ」をオープン(2021.4.14)

- ▶市役所地下レストランを改装
- ▶誰でも自由に交流できる、「環境」にも配慮した多機能空間
- ▶様々なワークショップや展示を開催
- ▶平日は、亀岡牛や亀岡産野菜を使った多彩なメニューを提供
- ▶9時から17時まで、土日祝も自由に利用可能



未来への挑戦

環境拠点施設の整備(2023年完成予定)

【設置目的】

- ▶ 亀岡市のブランド力向上
- ▶ 各種施策の情報発信
- ▶ 「環境」の下に集う人々の交流
- ▶ 「環境先進都市・亀岡市」を世界に発信



R4.1

R4.10

R5.1

R5.3

R5.4

R6.3

実施設計

既存建物
除却

新築工事

環境を軸にした、ブランド力向上とシビックプライドの醸成



ご清聴ありがとうございました！

亀岡市はこれからも、豊かで美しい自然を次世代に引き継ぐため、
世界に誇れる環境先進都市を目指して歩み続けます。

